

## 編集後記

今年は例年よりも遅い春の訪れで、桜の開花も遅れておりましたがちょうど満開の時に合わせて保健医療学雑誌 7 巻 1 号をお届けできることを嬉しく思います。今号には、Original Article 1 編，原著論文 1 編，総説 1 編，資料 1 編が掲載されております。

Sato 論文では脳卒中片麻痺患者について、回復期の ADL 自立度を予測するモデルを作成し、既存のモデルと比較することでその妥当性を検証しています。新しいモデルでは既存のモデルよりも精度が高いことが示されています。

高田論文では立方骨サポートインソールによる動的バランス能力に与える影響を検証しています。対象は健常者であるが、より安定した立位を得られることを示すデータが得られています。

大歳論文では発達障害児支援について近年の動向から今後の方向性について考察しています。発達障害児支援には保健・医療だけでなく教育・福祉・労働といった幅広い領域でのサポートが重要であり、そのためにクライアントを中心とした関係者の密な連携が必要であることを示しています。

西井論文では近年、注目されている生活行為向上マネジメントについて概説されています。そもそも生活行為向上マネジメントとは何か、それを実践する t 前にどのように行っていくのかについて分かり易く解説されています。

2016 年 4 月 1 日から診療報酬の改定が動き始めます。今回の改定では、超高齢社会をよりよい社会にしていくべきに何をなすべきなのかという命題を受けて”地域医療”がクローズアップされているように思います。地域包括ケアという言葉が広く社会に広まっていく昨今、保健医療分野もますます発展していくことと思います。保健医療学雑誌も 7 年目という節目の年に突入し、皆様により多くの情報を提供できるよう目指してまいります。

(2016 年 3 月 31 日)

編集実務担当

椰野 浩司 (関西福祉科学大学)